

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称	環境緑地論					授業形態		講義	
科目コード	710017	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	中野 光議								
授業概要	<p>本授業の目的は学生達が、良好な緑地環境を保全・再生し、生物と共生することができる環境づくりを理解することです。緑地環境を保全・再生するために必要な技術と政策について、緑地生態学の観点から解説します。この授業では緑地として、森林、草原、都市公園といった陸域の緑地に加えて、河川、湖沼、水田、水路、ため池といった水域も扱います。これらの緑地の保全について、計画の作成、設計、管理の段階ごとに解説します。</p>								
関連する科目	履修後は、水辺環境論、環境調査及び再生論、ピオトープ論、環境緑地論実習、水辺環境論実習を履修することが望ましい。								
授業の進め方 と方法	<p>授業の前半は講義を聞きながらワークシート（穴埋め形式）に取り組みます【知識・理解の獲得】。講義の中で学生に質問することで、学習効果を高めます。後半は、小テストや課題に取り組み、前半の学びを発展させます【汎用的技能の育成】。また、学生の考えを発表する対話型の授業で理解を深めます。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>第1回 概論 授業全体の内容や進め方、緑地の定義等について理解します。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>第2回 自然保護区 自然保護区の定義、種類、設定に当たっての考え方を学びます。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>第3回 緑地計画 緑地を造成するための計画の作成に必要な事項について学びます。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>第4回 樹林と草地の設計 樹林と草地の基礎知識と設計方法について学びます。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>第5回 水辺環境の設計 水辺環境の概要と設計の方針について学びます。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>第6回 鳥類の生息環境の設計 鳥類の生態の概要、および生息環境の設計の方針や方法について学びます。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>第7回 昆虫類の生息環境の設計（1）トンボ類 トンボ類の生態の概要、および生息環境の設計の方針や方法について学びます。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>第8回 昆虫類の生息環境の設計（2）ホタル類 ゲンジボタル等の昆虫類の生態の概要、および生息環境の設計の方針や方法について学びます。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>第9回 両生・爬虫類の生息環境の設計 両生類と爬虫類の生態の概要、および生息環境の設計の方針や方法について学びます。</p>								
授業計画 【第10回】	<p>第10回 魚類の生息環境の設計 魚類の生態の概要、および生息環境の設計の方針や方法について学びます。</p>								
授業計画 【第11回】	<p>第11回 陸生・水生貝類の生息環境の設計 陸生・水生貝類の生態の概要、および生息環境の設計の方針や方法について学びます。</p>								

授業計画 【第12回】	第12回 生態学的植生管理 樹林と草地、および水辺の植生管理の方法について学びます。
授業計画 【第13回】	第13回 緑地が直面する現在の課題 生物多様性の危機等の地球環境問題の解決に向けて、緑地を有効に活用する方法を学びます。
授業計画 【第14回】	第14回 自然環境保全計画の作成 自然環境保全計画の作成の方法を、グループ学習の形態で学びます。
授業計画 【第15回】	第15回 自然環境保全計画の発表 自然環境保全計画の作成の発表と議論の方法を、グループ学習の形態で学びます。
授業の到達目標	1. 緑地の造成・管理に必要な幅広い知識を獲得する。【知識・理解の獲得】 2. 動植物を保全するために必要な知識を獲得する。【知識・理解の獲得】 3. 自然環境を保全するための方策を自分で考え出す思考力を養う。【汎用的技能の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)
授業時間外の学修 【予習】	毎回、授業中に指示します。次回の授業のテーマについて本やインターネットで調べてもらいます。
授業時間外の学修 【復習】	毎回、授業中に指示します。
課題に対する フィードバック	ワークシート、小テスト、課題は評価後に返却し、解説します。
評価方法・基準	提出物80%、発表20%で評価します。ただし、3分の2以上の回に出席することは要件です。
テキスト	なし
参考書	『緑地生態学』井出久登ほか 著（朝倉書店） 『改訂6版 環境社会検定試験®eco検定公式テキスト』東京商工会議所 編著（日本能率協会マネジメントセンター） 『水辺環境の保全-生物群集の視点から-』江崎保男ほか 著（朝倉書店）
備考	なし